

[通常機体]カ M 「SEED ASTRAY」

ガンダムアストレイ レッドフレーム・パワーローダー装備

機体名	ガンダムアストレイレッドフレーム	画像
型式番号	MBF-P02	
英語名	GUNDAM ASTRAY RED-FRAME	
所属	オーブ モルゲンレーテ社ジャンク屋	
パイロット	ロウ・ギュール AI8 (八手)「サポート」	
装甲材質		
装備	頭部イーゲルシュテルン×2 ビーム・サーベル ビーム・ライフルガーベラ・ストレートパワーローダー上半身パーツパワーローダー下半身パーツ	
作品名	機動戦士ガンダム SEED ASTRAY 機動戦士ガンダム SEED ASTRAY R 機動戦士ガンダム SEED ASTRAY B	
参考書籍	電撃ホビーマガジン少年エースガンダム SEED & アストレイモデリングマニュアル Vol.1 機動戦士ガンダム SEED ASTRAY 機動戦士ガンダム SEED ASTRAY R 機動戦士ガンダム SEED モデル Vol.4	

内容

ミーティアをヒントに、150 ガーベラストレートを動かすためだけに作られた補助メカでそのサイズはレッドフレームの約3倍（初登場時は約10倍程にも見えてしまったのだが）ほどもある。

超重量級のパワーローダーで機体前部にレッドフレームを合体させることによって運用する。無重力空間以外での運用も考慮し、人型になっている。

また、人型としたことでレッドフレームの制御系がそのまま使える。

運用時はレッドフレームもガーベラストレートを構え、動きをパワーローダー側にトレースさせている。

ただし、この巨大なパワーローダーはリ・ホームの格納庫に入りきらないため、ロウはパワーローダーの上半身と下半身を分離、A パーツ・B パーツとすることで解決している。

（なお、上半身と下半身のどちらが A パーツでどちらが B パーツかはまだ触られていない。）

パワーはあるが巨体すぎて通常の戦闘に使えるものではないことが分かっている。

SEED モデル

ロウ・ギュールが150 ガーベラを自在に操るべく、ジャンクパーツから作り上げた奇想兵器ともいえる強化モジュール。

エターナルへ物資補給のため赴いた際に目にしたウエボンプラットホーム「ミーティア」を参考にして建造された。

ユニットは上半身と下半身に分離した形でリ・ホーム左舷デッキに格納されており、射出後に合体、さらにレッドフレームは機体中央にドッキングする。

運用上は各部に装着されたケーブルを介してパワーローダーの四肢と連動、そのパワーを大幅に増幅させる。

機動性はさすがに劣るものの、そのパワーはMSとしてのレベルを凌駕している。

いかにもロウらしい超ド級の装備である。

備考

150 ガーベラ・ストレート

ロウが地球で発見したザフト開発のレア・メタルを使い、グレイブヤードにて鍛造した全長約 150 mの巨大剣。

巨大ゆえに携帯は不可能なため、鞘を製造しリ・ホームの右脇に固定している。

ザフトのゲイツ 4 機を一閃にて真っ二つにする威力を誇るが、その巨大さのためにふるったレッドフレームの両腕がいかれてしまった。

ジャスティスガンダムがミーティアと合体するのを目撃し、強化パーツ案 "パワーローダー" を思いつく。

ジャン・キャリーの設計した超精度研ぎ機でさらに 10%精度を上げることに成功している。

当初はガーベラ・ストレート Vol.2 (仮) と呼称した資料もあった。

パワーローダー上半身パーツ

制御用の MS を装着することで作業マシンとして使用することができる。

パワーローダー下半身パーツ

足のツメが反転し物を掴んだりすることができる。

上半身同様、作業マシンとして使用することができる。

関連項目

- ・ ガンダムアストレイレッドフレーム
- ・ ガンダムアストレイレッドフレーム・水中装備
- ・ ガンダムアストレイレッドフレーム・フライト・ユニット装備
- ・ パワードレッド

スペック

項目	内容
全高	17.53m
頭頂高	
全長	
本体重量	
全備重量	49.8t
パワーローダー装着時全高	不明
パワーローダー装着時全備重量	不明
ジェネレーター出力	

スラスタ-推力	
センサ有効半径	